
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 11 時 00 分）

◇ 福 本 栄一郎 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位 8 番、福本栄一郎君。

（2 番 福本栄一郎君 登壇）

○2 番（福本栄一郎君） 平成26年松崎町議会第 1 回定例会の一般質問の最後ということで、質問を行います。

私の質問は教育施設等の整備と防災対策についての 2 点であります。町民の安心・安全な生活を守るため、具体的かつ満足のいくわかりやすい明確な答弁をお願いいたします。

まず、教育施設等の整備についての第 1 点目、松崎町第 5 次総合計画の実施計画において平成26年度に幼稚園、学校給食共同調理場の設計、平成27年度に建設が計画されておりますが、施設規模、場所等が決定されているのでしょうか、お伺いいたします。

とりわけ、幼稚園の建設は在園及びこれから入園を予定される保護者を対象としたアンケートを実施すべきと考えますが、町長のお考えについてお伺いいたします。

2 点目、総合計画では、平成27年度に私立聖和保育園の建て替えが計画されておりますが、将来的に子どもが限りなく減少する傾向の中、幼稚園・保育園の両方の機能を持つ認定こども園をつくる考えはあるのでしょうか。また聖和保育園はどのように考えているのでしょうか、お伺いいたします。

3 点目、幼稚園、学校給食共同調理場の建設について、行政の広域化観点からの考察はあるのでしょうか、お伺いいたします。

4 点目、幼稚園、小学校が統合され年数が経過しておりますが、利活用することについて、昨年第 4 回(12月)定例会で一般質問を行いました。具体的かつ明確な回答が得られておりません。期限を定めて方向性を出すべきではないのでしょうか、お伺いいたします。

5 点目、条例で定めた教育施設等整備検討委員会はこれまで開催されて来ておりませんが、諮問委員会の意義と役割についてお伺いいたします

次に、大きな質問の 2 点目であります。防災対策についてであります。

1 点目、避難路上には、ブロック塀などがあり、倒壊し通行不能になることが考えられます。特に夜間ではパニック状態となり未曾有の被害が想定されます。独居高齢者世帯が増加

する中、避難路の整備進捗状況と災害弱者の避難支援策についてお伺いいたします。

2点目、以前、津波ハザードマップを作製いたしました但、静岡県第4次地震被害想定（第二次報告）に即したマップ作製の考へについてお伺いいたします。

3点目、一般行政執行のみならず、防災対策のスピード感とはいかなるものでしょうか、お伺いいたします。

以上、壇上からの一般質問を終わります。

（町長 齋藤文彦君 登壇）

○町長（齋藤文彦君） 福本栄一郎議員の一般質問にお答えします。

1. 教育施設等の整備について。

①「松崎町第5次総合計画の実施計画において平成26年度に幼稚園、学校給食共同調理場の設計、計画されているが、施設規模、場所等が決定されているのか。とりわけ、幼稚園の建設は在園及び入園を予定される保護者を対象としたアンケートを実施する考へは」についてでございます。

幼稚園の1園統合及び共同調理場の建設については数年前から場所の選定が検討されていましたが、東日本大震災の発生で津波被害想定を見直すことになり、その結果を待つて改めて検討していくことにしました。候補地としては、藤井議員の質問にお答えしたとおり、内部の公共施設配置検討委員会で検討し、幼稚園については旧岩科小学校を、共同調理場は伏倉町営住宅跡地を候補地として、議員も委員になっております教育施設等整備検討委員会に諮問をしたとおりで、施設規模につきましては、幼稚園、共同調理場とも500㎡程度を見込んでいます。

なお、保護者へのアンケートの実施は、教育施設等整備検討委員会からの答申もいただいておりますが、委員会の進む中で検討していきたいと思ひます。

②「総合計画では、平成27年度に私立聖和保育園の建て替えが計画されているが、将来的に子どもが限りなく減少する傾向の中、幼稚園・保育園の両方の機能を持つ認定こども園の考へは。また聖和保育園はどのように考へているか」についてであります。

「子ども・子育て関連3法案」の趣旨や、子どもが減少していくことを考へれば幼稚園、保育園の機能を併せ持つ総合こども園が理想かと思ひますが、幼稚園は町が、保育園を民間が担ってきた経過を考へますと、統合には相当の準備、調整が必要でございます。

私立保育園側は施設が老朽化していることや津波が発生した場合を考へ、安全な平地への移転と建設援助を申し出ており、町からの要請があれば総合こども園として運営することも

考えているようですが、今までの実績は大いに評価しても、今後も適切に運営できるという保障はありませんので、これについては同意するつもりはありません。

また、逆に町が総合こども園を運営した場合、私立保育園で雇用している保育士への対応も必要ですし、今の時点で総合こども園を建設した場合、160人規模の施設となり、費用の点や、将来は過大な施設になるという問題も発生します。このようなことを考慮すると、今の時点では従来どおり幼稚園、保育園は別々に設置し、将来、子どもが激減した場合、統合を検討することが適当かと思われます。

なお、保育園側の事業として平成26年度末までに建設工事の契約を完了し、平成27年度末までに完成すれば、安心こども基金により2分の1の補助を受けることができます。

③「幼稚園、学校給食共同調理場の建設について、行政の広域化観点からの考察は」についてでございます。

現在は、単独で設置する方向で、教育施設等整備検討委員会へ諮問をしており、答申もいただいておりますので、この場での回答は差し控えさせていただきます。しかし、仮に広域で共同設置することを考えた場合、建設場所の選定、通園距離や給食の配送時間への影響、災害時の通行路確保など解決しなければならない課題が多くあると思います。

④「幼稚園、小学校が統合され年数が経過しているが、利活用することについて、昨年第4回(12月)定例会で一般質問を行ったが、具体的かつ明確な回答が得られていない。期限を定めて方向性を出すべきではないか」についてであります。

このことにつきましては、藤井議員にご回答しましたとおり、施設の有効利用を基本としていますが、現在のところ利活用の申し込みも無く、旧幼稚園舎は津波浸水区域にありますので、慎重に検討したいと思います。

⑤「条例で定めた教育施設等整備検討委員会はこれまで開催されて来ていないが、諮問委員会の意義と役割について伺います」です。

教育施設等整備検討委員会は、1番目の質問に回答しましたとおり、県の第4次被害想定の結果を待っていましたので、しばらく開催されない状況でしたが、統合幼稚園及び共同調理場の建設用地について、2月28日に諮問を行いました。

諮問委員会は、政策の決定にあたり、諮問に応じ又は自発的に調査審議し、参考となる意見を述べる権限を有する附属機関です。

2. 防災対策について。

①「避難路上には、ブロック塀などがあり倒壊し通行不能になることが考えられる。特に

夜間ではパニック状態となり未曾有の被害が想定される。独居高齢者世帯が増加する中、避難路の整備進捗状況と災害弱者の避難対策は。また、ブロック塀等耐震改修促進の活用は」についてでございます。

平成25年度における避難路整備につきましては、道部の笈ヶ浜と中区内の避難路整備を町で行いました。また、三浦地区では町道への原材料支給制度を活用し、階段への手すりの設置などを行う等、自主防災会においても避難路整備を進めています。しかし、避難者が多い旧松崎町内はご承知のとおり、高台が無い場合津波避難ビルまでへの避難路確保が重要となりますが、住宅の密集や議員ご指摘のブロック塀の改修等課題が多く残されております。

町といたしましては、ブロック塀等の改修補助や住宅の耐震化補助により、ブロック塀、家屋の倒壊防止による避難路確保を目指しておりますが、ブロック塀の撤去が平成25年度で1件、耐震補強に係る計画・助成はいずれも0件で累計でも17件です。今後は、補助制度の見直しの検討やPRによる利用促進を図ってまいります。

災害弱者への対応としては、要介護支援システムの整備に向けて、情報整理を進めている状況です。ある情報によりますと、「災害弱者対策の鍵は、災害弱者や施設、行政、地域とボランティア等の連携にあり、災害弱者対応訓練は重要である。」としておりますので、今後このような弱者向けの防災訓練も必要かと考えます。

②「以前、津波ハザードマップを作製したが、静岡県第4次地震津波被害想定（第二次報告）に即したマップ作製は」についてでございます。

ハザードマップにつきましては、これまでに第3次地震津波被害想定を基にしたマップと、平成19年3月に松崎地区浸水対策時のマップが作成されています。今年度において、第4次地震津波被害想定に基づくマップの作成に向けて予算化したところですが、岩科方面の浸水データに異常が確認されたことから、県へデータの修正を依頼し、修正が終わったところではあります。

この間、気象庁による特別警報の発令が決まり、更には、近年には土砂災害警報が発令されるケースが多くなったことから、ハザードマップをより効果的なものとするため、急傾斜地危険箇所や土石流危険地域などを網羅した、内容の充実を図り、町全体の状況を知っていただくことで、避難時に有効活用できるようなマップ作製に向けて、26年度予算に計上させていただきます。

③「防災対策のスピード感とは」についてでございます。

防災のみならず、行政全般に言えることかと思いますが、「住民の要望にいかにか的確に答

える。」ことかと考えます。

以上でございます。

○2番（福本栄一郎君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○2番（福本栄一郎君） それでは、最初に、教育施設等の整備ですけれども、ちょっとその前に、教育委員会に冒頭お伺いしておきますけれども、幼稚園、共同調理場、それから、聖和保育園の方の今の段階の事業費というのがわかったら教えてくださいませんか。いわゆる工事費、設計料を含めて。

またあとで質問しますので、ご回答いただければよろしいかと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 後ほど回答してください。

○2番（福本栄一郎君） それから、大きな2番目の防災対策ですけれども、これもまた、総務課長の方ですね。担当は。ちょっと冒頭聞いておきます。

ハザードマップを作るかという質問を出していますよね。この教育施設等の幼稚園、共同調理場をこめて、津波浸水対策・・・、それで、静岡県第4次地震被害想定、去年の11月に第二次報告、これでもう次の第三次報告はないという仮定でよろしいですか。

○総務課長（金刺英夫君） 第一次報告で被害状況といいますが、一般的な被害、それから、第二次報告で経済的な被害とか、そういった形で報告を受けておりますので、今、私どもの受けている報告では、第2次報告で終わるということで聞いていまして、それ以上の新しい報告というのは入っておりませんので、現状で終わりかと思います。

○2番（福本栄一郎君） 総括的と言いますか、冒頭ですけど、幼稚園の一園化、幼稚園の建設問題、共同調理場、聖和保育園等を含めて、今の第2次被害想定に沿ってということですよ。今まで諮問委員会もやらなかったということは、県の第4次被害想定を待っていてやらなかったと・・・。よく学者が言いますがけれども「これは想定外でした」と言うことは、得意言葉ですよ。昔、昭和51年当時、石橋さんのいつ来てもおかしくない東海地震、それから30年くらい経過してきて、かれこれ40年近くになりますか。それで今は東海、東南海、南海、さらには南海巨大トラフという、どんどんどんどん・・・。学者の先生が考えること、これは結構でございます。これによって、私の言いたいことは、莫大な金を使うわけですよ、幼稚園、共同調理場、この辺を含めて、先ほど総務課長に質問したことは、そこがあるんです。年が変われば第3次被害想定が来ましたと、今は無いという仮定でこれから質問します。順不同になりますけれども、幼稚園と共同調理場の建設については、4園が2園、2園

が1園になったわけですね。幼稚園の広域化、これは前に藤井議員が質問したとおりですけど、だんだん子どもが減ってきます。こんな莫大な金をかけて良いものかなと私は思うんですよ。人口がだんだん減ってきます。ですから聖和保育園の先生もやぶさかでないようなことを先ほど町長も答弁されていますけれども、まず1点目は認定こども園の設置があるかどうか、再度伺いまして、その後は西伊豆町との広域化はどうでしょうか、まず伺います。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 先ほどの質問ですけど、まずは幼稚園と共同調理場の関係からです。これは設計もまだできていない状況ですので、あくまで参考見積もりということで、標準的な設備とした場合ということで、幼稚園は500㎡で遊具ですとか設計費等を含めると、見込んでるのは1億6000万円ほど。それから共同調理場につきましても500㎡ほどを見込んで一般的な設備、付帯設備を含んで約3億円くらいを見込んでいます。当然、設計費込みです。

○町長（齋藤文彦君） 広域化の件ですけども、福本議員の言うことは本当にそのとおりだと思うわけですけども、調理場の件については、西伊豆町の町長と話したことがあるわけですけど、松崎町は松崎町で進めていったらどうだろうか、西豆自治会があるので、その中で話し合ったらどうだろうかという話はございます。

○2番（福本栄一郎君） 幼稚園の場所ですけど、町長は諮問委員会をやりまして、私も諮問委員の一人ですけども、町長がトップダウンで作るんだったらば、岩科小学校敷地内、共同調理場は伏倉の元町営住宅跡地ということで良いと思うんですけど、今朝の新聞に候補地は旧岩科小学校というのが出ていますけど、保護者にね、これからの0歳児の保護者を含めて、アンケートを実施すべきじゃないかということを私は言いたいんです。幼稚園の1園化について、東北大震災が起こる前にアンケートをしましたら、4園を1園化、この目的が子どもが減っているから1つにしましょうと。アンケートを実施した時には4園全体の保護者の皆さんは賛成が74パーセント、どちらでも18パーセントを足すと92パーセント、ところがその後、東北大震災が来たわけです。この時のお母さん方は4園が1園化されるなら当然、松崎だと思っていた。ところが地震が来て、緊急避難的に中川、岩科に行っていますけれども、そういった時に保護者のアンケートを取ることが一番大事じゃないですか。それぞれ皆さん方あるんですよ。4園、やっぱり地区に皆、愛着があると思うんです。職員も我々も含めて、地区ごとにある幼稚園に行っているわけですよ。私立に行った方もあると思いますけど。そういった中でアンケートを、町長がトップダウンで出すよりもアンケートをやって町の貴重な施設でもあり貴重な町有財産ですよ。その辺でアンケートを尊重する考え方、町長

が施政方針並びに所信表明でも皆さんと協働したまちづくりと言っていますよね。だったら民意が一番反映できると思うんです、アンケートが。それぞれのお母さん方の考え方を聞く、声を出しては言わないでしょうけども鉛筆で書くことには皆さん訴えてきますよ。これは町長が言っています声無き声を拾うという政策じゃないですか。その辺の考え方はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） アンケートはですね、壇上で答えたとおり、教育施設等整備検討委員会の進み具合の中でいろいろ出てくると思いますので、それでアンケートを考えています。長が石を投げて、それでいろいろな波紋が出てくると思うわけですが、それに対してのアンケートというのは、取る必要があると考えていますので、そのようなことで考えていきたいと思います。

○2番（福本栄一郎君） それではですね、諮問委員会に出していますけれども、諮問委員会というのは、何回やるわけですか。予算審議の時にも私は質問する予定ですが、平成26年度・・・、もう我々の手元に来ていますから、見ました。それで、この間の勉強会でも受けまして、もうすでに平成26年度に設計が入っていますよね。となると、時間的にいきますと、もう慎重審議をして、これはもちろん教育施設ですから、町の大変な財産になるわけですよ、莫大な投資をしていますから、そのへんをこの期間中に、今年中に、4月1日から諮問委員会も良いですよ、端折って良いですよ、予算が付いていますから、そのへんを諮問委員会は町長の中でどのくらい想定しているのですか。

○町長（齋藤文彦君） 本当に松崎で一つの幼稚園になるわけですから、本当に町の皆さんに祝福された幼稚園にしたいと思っていますので、本当に慎重審議でやりたいなと思っているわけですが、4園が2園になった時になるべく早く1園にすると議会の方からも言われたし、諮問委員会の方からも言われていますので、なるべくスピーディーにいきたいなと思っていますところでございます。回数に関しては担当者から・・・。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 教育委員会は、先ほど予算書が行っているということで、すでにご承知のとおりかと思いますが、予算的には5回開催を見込んでいます。

○2番（福本栄一郎君） これは、町長にもう1回聞きますけども、先ほど町長が言ったように民意を反映する、アンケート、声無き声を拾い上げて、町政に反映する。これが、安らぎを与える協働のまちづくりと町長が施政方針、所信表明で言っていますよね、だったら、当初予算、まだ審議に入ってませんが、もし、諮問委員会で結論が出なかったら、予算を執行できないですよ、見切り発車するんですか、そのへんをお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 見切り発車ということはないので、1園の幼稚園ですから、ちゃんとはっきりしてからいききたいなと思っています。

○2番（福本栄一郎君） 時間的な関係もありますので、そのへんは十分にアンケートを実施して皆さんの意見を拾い上げて、町政に反映してもらいたいということで、一問目の質問を終わります。次に、もう一つ伺いますけれども、共同調理場、これは給食日数が年間185日くらいかなと思うんですけど、正確な日数は分かりませんが、稼働率から見ると、半分くらいですよ、年間稼働率が。このへんの空いているところ、質問にも出していますが、高齢者世帯を加味して、さらには、西伊豆町との広域化を図る面で、このへんの考え方はどうでしょうか。遊んでいる日数を利用しての給食施設、このへんはどうでしょうか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 年間給食回数は、平成26年度は、幼稚園は170回ほど、小学校、中学校は180回を現在のところ予定していますが、空いている時間というのは学校の休校日になりますので、職員もその時には原則休みとなります。夏休みは長期間ありますけれども、一般的には休みで職員も業務をしていないという考えになります。学校給食の調理場というのは、給食施設整備基準とかいろいろな文科省の法令に則った施設を整備しているものですから、それ以外の給食が提供できるものかどうか、勉強不足で研究する必要があると思いますので、この場で明確な回答ができないことはご容赦願いたいと思います。

○2番（福本栄一郎君） 給食施設も人口がだんだん減ってくる。ただし、現状の子どもの人数に合わせた施設を作らなければ回らない。将来はだいたい目に見えていますよね。今、高齢化率は松崎町で40パーセント台を超えましたよね。だんだん高齢化。そのへんを、松崎町民を、もちろん子どもさん方が第一ですよ。空いている時に何かできないでしょうかということなんです。そのへんを町長は良く検討して、場合によっては諮問委員会にも提案していただきたいと思います。それから次に、幼稚園、小学校が統合されて、そのままですよ。町長の答弁では、地区サロンですとか投票所に使っているという。選挙なんていうのは、4年に一度、その都度ありますけれども、そのまま置いておくというよりもむしろ、考えの発想を、もし使っていなければ、町有地ですよ。そのへんをもっと有効的に、皆さん地区で思い入れのある土地なんです。これを地区の住民、あるいは他所から、町長の言うグリーンツーリズムとかに活用できないんですか。投票所とか地区のサロンではなくて、もっと活性化を図るための経済的な考えを入れてのですよ。全然、沈み込んでしまっているんです

よ、経済は。このへんを入れて、都会を呼び込む方策。経済的な観点を入れての考え方はないですか。そのへんをお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ考えているところですけども、なかなか上手くいかないのが現状でございまして、ただ、県の方から福祉避難所というのが松崎町には無いと言われてますので、中川小学校の跡地というのは、何かあった時のオフサイトセンターと福祉の広域避難所みたいなのに、バリアフリーのやつにすればと、個人的には考えているわけですけども、下田警察署の松崎分庁舎の件が、もっとスムーズに行くのかなと思ったら、なかなか遅くて、進まないのが非常に苦慮しているところですけども、そのようなことを考えながら、上手くやっていければ良いなと思っているところでございます。本当はNPOとか何とかが上手く使ってくれば良いわけですけども、ある時、味噌を作りたいからということがあったわけですけども、これは良いなと思ったんですけど、途中で立ち消えになったりして、いろいろ進まないところがあるわけですけど、やっぱり皆さんの目に見えるような形で、こういうふうに使っていくというのをなるべく早く決めていければと思っているところでは。

○2番（福本栄一郎君） 幼稚園にしても小学校にしても、全然休眠状態ですよ。そうなりますと、取り壊さないでしょうけども、年数が経過してくると、耐震化も不安になって来ますよね。耐震化ばかりでなくて耐久度、コンクリート構造物ですから、幼稚園も小学校も、コンクリートが劣化してきます。今に使えなくなる。将来を見据えたならば、改修するんですか、そのへんをお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 福本議員が言われることは良く分かるわけですけども、そのようなことを考えて、どのような方法が一番良いのか、今、話し合っていますけども、なるべく早く、上手く使えるよう形で進めていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） 町長が言ったようにスピード感です、行政は。スピードをもってすぐにやる。何でもすぐやる課ではないですけど、そのへんを含めて、やってはどうですか。三浦小学校が一番良いでしょう、あそこが。あそこは、石部の棚田、町長が美しい村づくりで一番目玉にしているのは石部の棚田、なまこ壁。一番景色も良いです。しかも、国道から道を拡幅して、道が入ります。これを経済的に入れてはどうですか。三浦小学校にはグラウンドもありますし、プールもあります、施設も新しいです。このへんを入れてください。岩科小学校も重文岩科学校があります。中川小学校もちゃんと良い場所にあります。そのへんを経済的な観点を入れて、そのままでは、ある面では税金の無駄遣いですよ。町有施設をそ

のまま放置しておくことは。町有財産を有効活用しないということは、税金の無駄遣いですから、そのへんを良く考えて、検討してください。そして、整備検討委員会にも幼稚園の建て替え、共同調理場だけでなく、こういった現有建物の利活用についての諮問を出したらどうですか、そのへんを伺います。

○町長（齋藤文彦君） 本当にそのようなこともやっていきたいと思っています。ただ、三浦小学校については、県の方と話が進まないわけですが、棚田の関係で県知事も非常に目をかけてくれていますので、あそこを上手く活用する方法を県と話し合っていくことになると思います。ただ、あそこは耐震性が無いということで、非常に難しい建物ですので、福本議員の言うところのスピード感がなかなか出せないわけですが、スピード感をもってやっていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） 教育施設は、かなり規制があると思うんですけど、今は安倍政権も規制緩和に動いています、世の中もそうです。何も縛り付けてないです。そこを町長が情熱をもって、熱意をもって、規制緩和を打破するようにやってください。次に防災対策にいきます。西区の方に避難タワーということで、建設が進められていますけれども、あの辺の避難場所は、平成26年度予算で載っていますけれども、西区に限らず、こちらの南区、宮内にかけて、避難タワーでなくて、避難路ですね、避難タワーも必要でしょうけれども、避難路がブロック塀とか電柱が倒れる恐れがあります。2月の大雪の時には停電になりました。電気のありがたみを感じたと思うんですよ。ところが、人間は一晩寝ると忘れるんです、喉元過ぎれば無いんですよ。電気が点くのは当たり前と思っている。人間が一番弱いところにきている。この文明社会にどっぷりと浸かっていますから。何かあると不平不満、電気が消えると何で電気が消えたとか東京電力に殺到したそうですよね、何で電気を点けないかと。そういう場合に暗闇ですからですよ、昼間だったらさほどいかないでしょうけど。その中で、夜に地震が来た場合に、ブロック塀は倒れる、家屋は倒れる、電柱は倒れる、そのへんをどうするんですか。避難タワーには行くでしょうけれども、あそこもいろいろな問題があると思います。入口が狭い、人が殺到する、先に上ればそれは良いですよ。ですけど、通常は避難路を整備。この辺はどこに行きますかという人間心理上は海へは向かいませんよね、山へと向かうと思うんですよ、人間の心理では。そこが牛原山だと思うんです。これは道部を含めて。伏倉の方もそうなんです。そのへんの避難路の整備をですね、もう一度、町長の方から答弁をお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 防災に対しては、減災するためにいろいろなことを絡めてやらなけれ

ばいけないと思います。避難路についてもですね、この前、道部の笈ヶ浜のところが出来て、上まで登って見たんですけど、ものすごく良いものですから。宮内の方が絹の道を原材料支給で作ってくれたのも歩きましたけれども、ああいうふうにやるのが良いのではないかと思います。ただ、訓練の時に、それぞれの自主防からここをこうしてほしいというのが的確に出てくれば良いんですけど、なかなか出てこないところもございまして、また、出てくると非常に難しい問題を含めているところがございしますので、なかなか思うようにいかないわけですけど、福本議員が言われるように避難路というのは非常に大切なことだと思っていますので、私も頭の中にありますので、そのようなことを粛々とやっていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君）　それで、電気が消えた場合、全く見えなくなる。ましてや雨降り、深夜、悪い条件が重なったことを想定していますけど、逃げたくても逃げられませんよね。今度は天災でなくて人災になる恐れがあるんですよ。ブロック塀の倒壊、直しておくべきところを直さなかった、そのために人が行けなかった。懐中電灯を持っている方は良いですけど、おそらく突発的に来ますから、そういったことは無いですね。皆、暗闇の中でどうしようもない。そういった場合に、私が提案したいのは、夜間蛍光塗料ですか、この間、磐田市ですか、蓄光材という。私も現物を見たことは無いですけども、夜間蛍光塗料だと思うんです。そのへんの案内路、道順を、飛行場の滑走路じゃないですけども着陸灯が全部点きますよね、私はパイロットじゃないですけど、テレビで見えます。そういった案内板ですか、夜間、昼間はともかく夜間です。そういったことを含めて避難路整備ということをシフトして牛原山を整備するという考え方は無いでしょうか。

○総務課長（金刺英夫君）　議員のおっしゃる避難路整備、これはもっともなことでございまして、逃げる道が無ければどうしようもないということで、現在、夜間の関係につきましては、一部、すでに昨年から行っていますが、LEDの太陽電池を使ったものに変えていくというふうなこと。それから、今年度におきまして、蓄電池内蔵型の街灯を整備していく予定で機器の購入を進めています。こういったもので、少しずつでも避難路を明確にしていくというふうなこと。それから、道路の交差点におきましても点滅式の道路鋲がありますね、これらも付けていくような形で行っています。そういったものを今後、随時、避難路と思われるところを地元の自主防の方々と相談しながら、施設整備をしていきたいと考えています。また、塗料の関係につきましても、蓄光テープというのが、反射するテープがありまして、一部の地域で試験的に運用しておりますので、これらの状況を見ながら、そういったものの

普及もあるのかなというふうに考えております。

○2番（福本栄一郎君） 町長にもう一度、お伺いしますが、牛原山をね、もちろん、個人財産もありますけれども、そのへんを積極的に進めて、この松崎町ですと3000人くらいが行くでしょう、牛原山へと。そこの避難路の整備、あるいは収容できるだけの平らな場所、あるいは防災備蓄倉庫を兼ねたものを積極的にお願いしたいと思います。それから、次のハザードマップですけども、これは先ほど新年度予算に付けるということは分かりましたけれども、これは、レベル1、レベル2ということが来ていますよね、第2次被害想定で。先ほど、町長の答弁で土石流とか急傾斜、町全体ですけども、どの程度のものを、今、分かる範囲で教えてくれませんか。

○総務課長（金刺英夫君） 津波浸水区域ですので、レベル2の浸水区域を想定しています。ですから、最大の時にここまでというふうな色の段階を浸水深によって、色別によって表示していきたいと考えています。

○2番（福本栄一郎君） これは、当然、避難場所とかは入れるわけですよね。避難所、当然ですよね。その中でも、土石流の明示もしっかりとお願いしたいのと、それから避難路も入るんですか、そのへんもお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。時間は延長しますか。

○2番（福本栄一郎君） 延長を。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長いたします。

○総務課長（金刺英夫君） ハザードマップですので、そういったいろいろな避難地ですとかを入れていく予定でおります。避難路につきましては、これから変更する箇所がかなり出てくるのかなと思いますので、当面、見合わせていきたいと思っています。できるだけ、町民の方々に情報として提供できるものはマップへ掲載していきたいと考えております。

○2番（福本栄一郎君） 町長の所信表明、多様な主体により協働で進めるまちづくりですよ。6つの柱の中で、ここにちゃんと書いてあるんじゃないですか、那賀川河口方面のことも書いてありますが、こちらは別としましても、津波避難タワーの建設や避難路等の整備を進めるとともに橋梁の耐震化も取り組んでいます。今後とも国、県、その他関係機関との連絡を密にして防災対策を推進してまいります。ここなんですよ、町長、スピード感というのは。ただ、自主防災に任せる、各区長さん方ですよね、区長さん方には大変なご苦労をお願いしているわけですけども。だったら、町の担当者が専門的な知識を持っているでしょう、その人たちがこうしたらどうですかという提案をしたらどうですか。ここに書いてあり

ます、職員のコンプライアンスを高め、役場は町民の役に立つ人が働いている場所と言われるように全身全霊を傾注して邁進していく所存ですと町長ははっきり言っています。これは我々議員じゃないですよ、これは町長が町民に訴えることですからね。我々も選挙で選ばれてきたわけですから、これを持ち帰って、聞かれた人に答えなければならないですからね、私一人の個人じゃないですよ。議員さんたちみんなそうです。このへんでスピード感がどうですか、今、町民が何を必要としているのか、経済対策を含めて、地震対策を含めて、すべてやってくださいと。なおかつ、諮問委員会が総務課長いくつあるんですか。

○総務課長（金刺英夫君） 申し訳ございません。ちょっと把握しておりません。

○2番（福本栄一郎君） 条例に基づく町長の附属機関です。14か15あります。14でしたかね。活動状況というのは、5つか6つくらいでしたか、もっとあるんですかね、半分以下だったと思うんです。なぜ、諮問委員会をこれは冒頭の教育施設の絡みですけどね、意見を反映して皆さんの意見を吸い上げるでしょ諮問委員会は。各界、各層からさまざまな職業を持っている方々がいろいろな新しい風を吹き込んでくるでしょう。なぜ、活用しないですか。そのへんをお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 福本議員の横を通ると、スピード感という風が吹いてくるわけですが、なるべくスピード感を持ってやっていきたいなと思っています。諮問委員会、休止状態のところが多いと言われましたけれども、そのようなことを考えながら、スピード感を持ってやっていきたいなと思っています。

○2番（福本栄一郎君） 諮問委員会というのは、町長の言っている皆と協働して、力を合わせて一つになりましょうということでしょう、協働っていうことは。ともに働いてともに汗を流して、ともにまちづくりに頑張りましょうってことでしょう、目的は一つですよ。その過程で、町長が組織した条例に基づく諮問委員会を全部投げかけて、吸い上げたらどうですか。ですから、私が今まで言ったとおり町長は地区懇談会をと言ったら、毎月区長会をやっているからいいよと、そうじゃないんです。町長と町民の方が膝を交えて、声無き声を拾い上げて町政へ反映するのが、齋藤町長の務めじゃないですか。皆さんの意見を聞くと、一部の声の大きい人の意見を聞く、そうじゃないんです。皆さんが、底辺の方々の意見を吸い上げて町政へ反映する、これが真のまちづくりだと私は思いますよ。ですから、諮問委員会を条例に基づいているんですよ。条例はそのまま冬眠状態、休眠状態になっているでしょう。動物でもこの春に目が覚めてきますよ、冬眠から。まだ目が覚めてないじゃないですか、活動しますよ、このスプリングハットですよ。そのへんをお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 良い意見をいただきましたので、やっていきたいと。私も松崎を活性化させることをいろいろ考えているわけですが、いろいろな方法があると思いますが、福本議員が言われることもそれなりの効果があると思いますので、そのようなことを考えてやっていきたいと思っています。

○2番（福本栄一郎君） ですから、町長の所信表明、施政方針、6つの柱、これは朗読しませんけども、多様な主体により協働で進めるまちづくりを、これは絵に描いた餅とは言いませんよ、絵に描いたプリントじゃないですか、これじゃ駄目です。実際に町民の方に吸い上げて、今、町民が一番疲弊しています。いろいろな面で、経済もすべてですよ、医療関係もすべて、社会福祉もすべてです。これが、松崎町が得意なことを全国に発信すれば良いんじゃないですか、いわゆる規制緩和もあるでしょうが、そこを町長の情熱を持って、硬い岩盤でもくり抜く考えでいなければ駄目だと思います。そのへんを、もう一度、決意をお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど答えているとおり、松崎を活性化させるためにはいろいろな方法があると思いますので、福本議員が言われたこともその一つだと思います。

○2番（福本栄一郎君） この町長の施政方針、昨日やりましたよね、これをちょっと朗読します。一人一人が主役となり、活力と安らぎと感動のある町を掲げてやります。これを言い換えますと、活力と安らぎと感動ではないです。心配と不安と失望の町を作っちゃいけないということです。以上で一般質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） こっちは真剣にやっている。一人ひとりが主役となって・・・。

○2番（福本栄一郎君） 私が言うのは、行政はスピード感を持って、町の皆さんの意見を吸い上げて、より良い松崎を作ってくださいということなんです。やってください、どんどん。以上で終わります。

○町長（齋藤文彦君） 今、喝を受けてやりたいなと、それに応えてやりますんで。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で福本栄一郎君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩します。

（午前11時54分）